

平成27年度第2回福岡市美術館協議会 会議録

日 時	平成28年3月17日(木) 14:00~16:00
場 所	福岡アジア美術館 会議室
出席者	協議会委員：後藤会長外 計11名 福岡市美術館：錦織館長外 計9名 福岡アジア美術館：森館長外 計7名
議題	(1)福岡市美術館平成28年度事業計画について (2)福岡アジア美術館平成28年度事業計画について (3)その他

1 開会

2 館長挨拶(内容省略)

森福岡アジア美術館館長挨拶

3 議題

(1) 福岡市美術館平成28年度事業計画について

事務局より報告

(2) 福岡アジア美術館平成28年度事業計画について

事務局より報告

会長： 福岡市美術館のクロージング企画は気合が入っている。開館後もこのエネルギーを継続してほしい。では、質問等ある方どうぞ。

委員： 事業計画の資料に予算は出さないのか。

事務局： この協議会ではこれまでも事業の内容を説明しており予算については説明をしていない。

委員： 文化芸術振興財団の方で説明するのか。

事務局： 財団では財団の予算についての審議があるかもしれないが、美術館の予算の説明は特段ない。

委員： 福岡市美術館が9月から休館するなら、その時期に若い学芸員が海外の研修に行つてはどうか。また、アジア美術館は海外から招聘しているが、こちらから研究のためにどのくらいアジアに向いているのかわからない。出張費が少ないのではないか。そういうことをここで議論すべきではないか。

事務局： 海外での研修を展覧会に反映することは大事だと考えているが、市の予算の状況が厳しいので、科学研究費やその他の助成金に応募して機会を得るようにしている。昨年度は2名が海外研修に行った。

会長： 市の予算ではなく他の組織の資金で海外研修をする機会があるということか。

- 事務局： そうである。国や民間の助成金に積極的に応募している。
- 委員： 学芸員が海外研修に行けるように、休館中に特別に予算を措置してほしい。
- 会長： 福岡市美術館の常設企画展とは何か。
- 事務局： 常設企画展は外から借りた作品を中心とした展覧会だが、会場が常設展示室の中にあり、比較的小規模な会場となっている。非常に少ない予算の中で、できるだけ研究的・実験的に、かつ、多くの方々に楽しんでいただけるような展覧会を心がけて毎年開催している。近現代・古美術両方を年に1回ずつ実施したいが、予算によってはどちらかのみのある年もある。
- 会長： 特別企画展とは違って、小さい展示室で開催するこの常設企画展は学芸員が力を入れている。また、予算が厳しい中、図録の作成等、積極的に取り組んでいる。今後も継続してほしい。
- 委員： 両館とも来年度から「どこでも美術館」や解説の多言語化など、新しい試みをしていて期待している。アジア美術館の美術交流事業は美術作家や研究員の招聘人数が開館時から減少している。アジア美術館の基本理念の一つに交流があるが、だんだん縮小してきている。今後の交流事業の方向性について伺いたい。
- 事務局： 文化庁から5年間補助金をもらっていたが、それがなくなり人数が減った。当初は美術作家が4人と70日間、研究者・学芸員等が2人と40日間だったが、期間が短すぎるため、予算内で日数を増やした結果、人数を減らさざるを得なかった。5～8月の期間は招聘がないため、美術館はお金を出さないがサポートはするという受け入れ支援事業を積極的にやることとし、公募を行った結果、美術作家5名と研究者1名の応募があった。少ない予算の中で今後も交流事業を継続していく。
- 事務局： 交流事業で招聘する作家の年齢制限を今までは40歳未満としていたが、よりレベルが高く充実したものとするため、年齢制限をやめた。人数は減ったが中身の濃いものにしていきたい。また、受け入れ支援事業については、公募したのは初めてだが、シンガポールの銀行や台湾の芸術基金からの派遣など、開館以来かなり実績がある。今後どのように継続していくかはわからないが、できるだけ継続し、常に誰かは福岡にいて活動しているという状況を作っていきたい。
- 会長： 交流活動はすぐに結果が出ない。おそらく10年後、20年後にここで経験した人達が、自国あるいは外国に行つて、成果が出る。ぜひ、継続してほしい。
- 委員： 「ゴジラ展」には期待しているが、美術館の企画としてはどうなのか。反響も大きく集客力もあり企画としては成功すると思うが、今後の美術館活動としてどのような意味合いがあるのか。
- 事務局： 福岡市美術館は以前からサブカルチャーという分野についても積極的に取り組んできた美術館である。一番初めは1990年の「手塚治虫展」で、この時までは漫画というものを美術館で展示することは常識では考えられなかったが、この展覧会がきっかけで90年の前半から現在に至るまで、ミュージアムの中でアニメや漫画などのサブカルチャーという分野が、違和感がなくなるくらい紹介されてきた。今、世界的に日本の文化が評価されている中で、サブカルチャーの部分

が非常に大きいということは、国際的に認められた価値観だと思う。そうした意味で、美術館というものはすでに確立された、価値の定まっているものを紹介するだけではなく、今後価値を問うていくものにもチャレンジしていくべきだということで、今回は映画というものが作品となる。映画という部門を最初に取り上げる展覧会がこのゴジラ展ではないかと思う。この展覧会はゴジラ映画ファン向けのイベントとは異なり、美術館独自の切り口で、ゴジラそのものをいかに伝えるかをテーマにした取組みである。今後ともいいテーマがあれば積極的に取り組んでいきたい。

会長： 「手塚治虫展」は私も覚えているが、非常に画期的な展覧会だった。現在、アニメや映画等の研究が海外を含めて進んでいる。今、日本の様々な文化が世界的に研究されており、その潮流に乗った、なおかつお客も入る良い展覧会だと思う。

委員： 福岡市美術館と福岡市博物館の所蔵作品についてはどちらにあっても良いような作品や、お互いに関わりのある作品があるので、両館の作品をあわせて何か企画してほしい。

事務局： リニューアル休館中に福岡市博物館に作品を預かってもらうことを機に、福岡市博物館において、両館にある黒田資料を一年かけてテーマ展示してもらう計画である。また、休館中に「つきなみ講座」を福岡市博物館で実施し、両館の作品の展示がある場でトークができる予定である。

委員： 「ゴジラ展」は新たな世代を取り込むチャンスであり、また、休館に向けてのメッセージもあり、期待している。この展覧会のプロモーション活動について教えてほしい。また、アジア美術館の多言語化については、それを越えてボランティアが話しかけるという、表示だけでなくコミュニケーションをとることも大事である。そのための育成などの取組みがあれば教えてほしい。

事務局： 「ゴジラ展」のプロモーションについては、今度公開される新ゴジラの映像を「ゴジラ展」のCMに使えるよう現在協議中である。また、美術館をゴジラが破壊する新たな特撮映像を美術館が作る計画をしている。お金はかかるがこの映像はオリジナルなので、東宝に承認してもらえれば、CMにも使える。現在協議中だが、映画とのコラボレーションができればと思う。

事務局： 当館の案内解説のボランティアが毎日13時から16時の間待機してお客様を案内している。新規ボランティアの活動も決まっているので、引き続き訓練していきたい。

会長： アジアを含めた海外からのツアーが今後増えると思うので、その時のために準備をしておいてほしい。

委員： 現在、漫画やアニメも美術の教科書で紹介されている。中学校の教科書で扱っている領域や内容が若い世代のニーズになっていく。教科書の内容を踏まえて、若い世代が美術館に足を運ぶような展覧会を企画してはどうか。

(3) その他

事務局より報告（福岡市美術館リニューアル事業について）

- 会長： リニューアルについては契約も決まって本格化してきた。18年間という長期スパンで107億円という想像しづらい金額である。
- 委員： 80年代にロサンゼルス現代美術館が建て替え中に仮設のミュージアムを作った。休館中に美術館の外で一時的にミュージアムを作るようなプランはあるのか。
- 事務局： 福岡アジア美術館、福岡市博物館など、様々な場所でその場その場の作品とコラボしながら展示する。また、当館のマスターピースの作品は、九州・沖縄への巡回や美術館連絡協議会主催で全国巡回を考えている。また、事務所移転先の旧舞鶴中学校で何かできないか現在検討中である。
- 委員： 外でアクティブに活動できればそこで新たなファンがつくと思う。
- 委員： この休館中の機会を利用して、したいことをしようという精神が感じられて楽しみである。先ほどの議題で、福岡市美術館の作品を撮影しても良いということになるとツイッターやブログなどで作品画像が出回り大きな現象となると思うが、著作権は大丈夫なのか。
- 事務局： 作品によって撮影可・不可があり、また良いこともある反面、鑑賞の妨げになるなどの悪い面もある。休館前に新たなことに挑戦し、リニューアル開館後に活かしたい。
- 会長： ある美術館はオープニングの日に有名なブロガーを呼び、フェイスブックに流してもらい、彼らのコメントが流れて人を呼ぶという取組みを行っていた。今後、そのようなことも美術館全体として考えてもいいのではないかと思います。
- 委員： 供用開始とは何か。
- 事務局： リニューアルオープン後、一般の皆様にお越しいただく開始日である。
- 会長： 学芸業務以外はほぼ委託するということだが、途中で破たんしたらどうするのか。
- 事務局： 今回のPFI事業では、必要な経費を全て市が負担し、その中で事業者が独立採算で行うのはレストラン、カフェ、ミュージアムショップのみであるため、事業者側の破たんは非常に考えにくい。
- 会長： 17年後の社会を予想するのは難しい。美術館として今後どのようなリスクを考えているのか。
- 事務局： 個別に企業が破たんすることはあるかと思うが、その場合は事業グループ内での補完や代替企業を見つけることになっている。ただし、同じ事業者が市と共同で長い間事業を行うので、マインドを高く保ってもらうために市がモニタリングという形で進行管理を行い、事業を進めていくこととなっている。
- 事務局： 107億円は一度に払うわけではなく、割賦払いをし、物価変動に対応できるようにしている。また、この契約はサービス対価であり、スタート時にはリスクは考えられないが、社会情勢によ

ってサービスを変えざるを得ない場合や予算そのものが変わることはあり得る。また、このPFIは事業者に権限委譲がないため、市が運営し、その中で、ある部分を包括的に事業者へ委託しているという考えで成り立っている事業である。

会長： 景観や、読書室がなくなるなどのハード面での変化があり、それに伴ったプラス面はあると思う。

委員： 多言語化について、全て多言語化するのは大変なので、例えばタイトルだけでも多言語化すると検索に引っかかるので、ぜひ取り組んでほしい。

事務局： ホームページや館内の案内についての多言語化は日英中韓で行っている。市内へのインバウンド観光客は韓国人が最も多く個人ツアーであるため、当館の来館も韓国人が多いが、数年後には行動パターンが変わり、ますます美術館を訪れる方が多くなると思うので、今後は作品解説については日英だけでなく中韓も進めていきたい。

委員： 現在、大濠公園と福岡城跡はオープントップバスの停留所だが、福岡市美術館も停留所の名称に加えてはどうか。停留所になることで、外国人への認知度が上がり、またアクセスが整備されると思う。

4 館長挨拶（内容省略）

錦織福岡市美術館館長挨拶

5 閉会